

平成 27 年 6 月 生育状況確認

平成 27 年 11 月 21 日

『黄河の森緑化ネットワーク』事務局長 矢野正行

昨年は 11 月中旬にオトカ前旗を訪れたのですが、時期的に木々は冬の装いになりかけており緑はあまり鮮明ではありませんでした。このため今年には 6 月下旬の緑が一番濃い時期に成長を確認するための視察を設定しました。

技術者 2 名と通訳の 3 名でチームを組み、6 月 19 日から 22 日までハリサリ村で平成 26 年および平成 27 年に植樹を行った場所を訪れ、植え付けた楊柴、沙柳の状況を確認して来



ました。今年には 5 月から 6 月初旬にかけて雨が多く、

写真にもあるように平成 26 年に植えた沙柳は樹高が約 1.5m にも成長しており、自然の恵みに優るものは無いと云うのが実感です。ただ、5 月末に台風並みの強風が吹き、今年植付けた苗が根こそぎ倒れると云う被害も発生したそうです。日本でも異常気象が心配されていますが、中国奥地でもやはり異常気象は起こっているようです。



オトカ前旗での緑化協力事業は

丸5年となりますが、一般的に中国での緑化協力はカウンターパートとなる組織とその中心となる人物がしっかりしていないと途中で挫折するとよく言われています。我々『黄河の森緑化ネットワーク』の事業では、オトカ政府の窓口となる婦女緑化協会の陶迪（トーチー）女史が、オトカ政府内での地位向上にも関わらず、会長としてその任に当たってくれております。これが我々の日中緑化協力がスムーズに遂行出来ている最大の理由と考えています。

昨今の中国では物価の高騰や元の為替高止まりで、日本からの助成金は大変目減りしていますが、陶迪氏をはじめとするカウンターパートの皆さんが民間団体の『黄河の森緑化ネットワーク』との国際交流に価値を見い出されており、オトカ政府内で何とか予算を確保し契約した植樹緑化面積や植樹本数を実行して頂いているのは大変ありがたい事と考えています。しかし来年からはⅡ期事業として場所を変え契約も新しく交わすことになるので、緑化面積を少し減少させ物価高騰等とのバランスを取ろうと考えています。

今後の課題は今までに緑化した地域の維持管理をどのように進め徹底させて緑を保持し沙漠化を防止するかにあると思います。そのためにもぜひ助成金を継続して頂きたいと考えています。